

九州の兄弟にお目にかゝるのが此上なく嬉しいのである。農民をほんとうに救済するものは農民である、従来農民が役人等を救済してゐたが今度は農民が救済されるとは皮肉である。

然し農村救済の名を借りて十六倍圓でポロ銀行を救済するので農民の爲てはない。農民は自力更生に依つて自らを救済するの外はない。従前は女傭と三助が名物である、飯を喰らねば小作料が掛へない、新潟縣では大正十二年六十名の組合員が現在では組合のない所はない、小作料も一石五六斗であつたのが七八斗となつて自分の飯を喰らなくともよくなつた、之は農民運動の力が農民運動は新しい社會制度を創り出す農民自身の自力更生の力である、労働階級が産業管理を要求するが如く農民は土地を獲得せよ。

全農本部 杉山元治郎

同じ旗の下に立つ私として祝辭を申上ぐることを光榮とする、

資本主義の内部的矛盾の爲不景氣が深刻化した、昭和五年を界として農村の窮乏が急角度に増して来た、備いても幾にならぬのみならず飢饉線上に達し、忍従を賣償付けられてゐる農民が遂に立ち上らねばならなくなつた、即ち農會法の施設は上部階級に上進りをし下には泣ひが来まい、そこで青島内閣は施す術なく自力更生を叫び挙げた。

我々の農本論は大衆の集りであつて色々の思想もあらう、然し我々は農民階級のホントウの要求をとり上げて行き度い故に本部をして國庫のない行動を繰る様に仕向けて貰ひ度い、お互に同じ旗の下に働くホントウ